
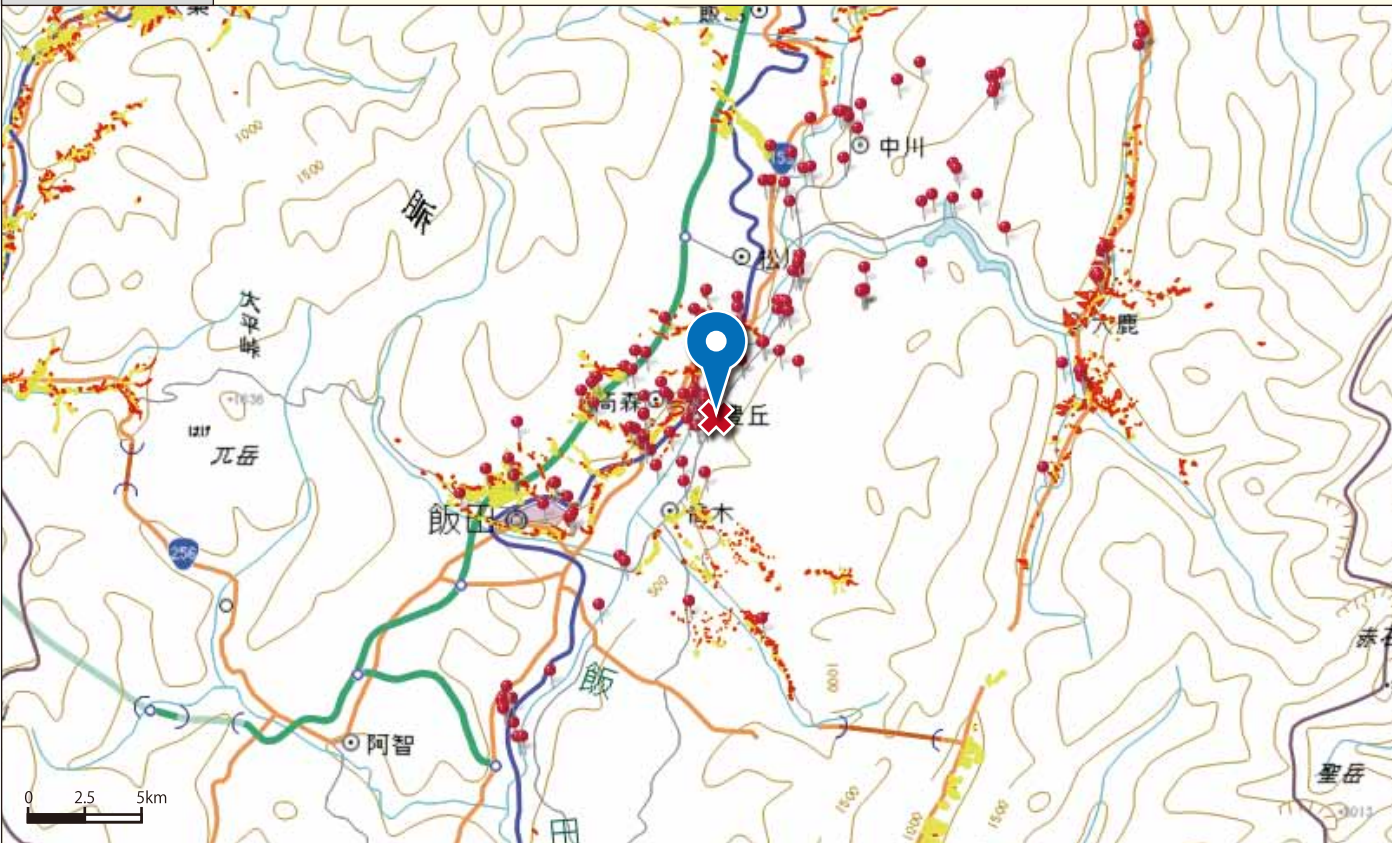
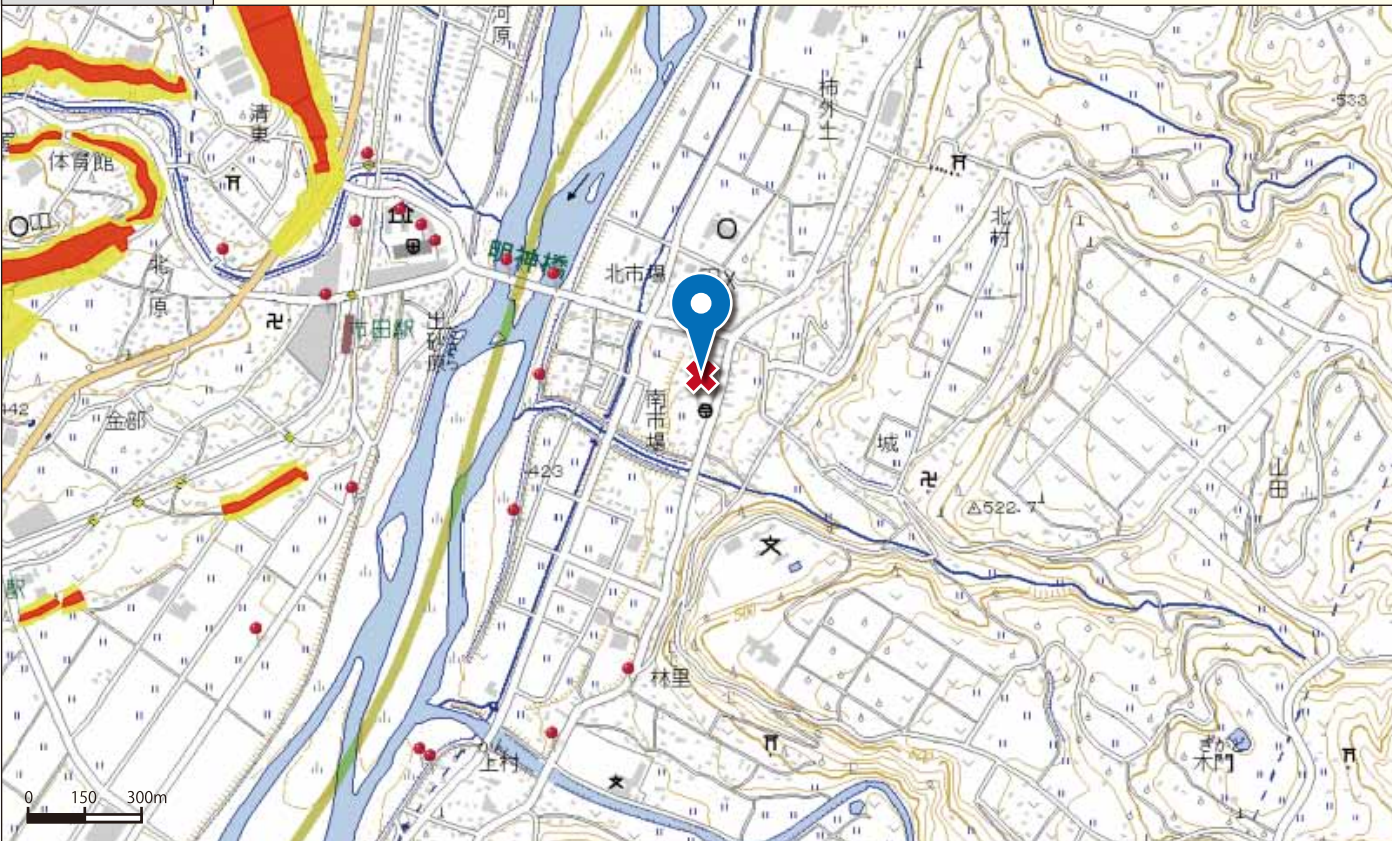


No.	16-1-4	場所	豊丘村神稲	次世代への継承キーワード 早期避難 / 地域コミュニティ / 避難路確保	
名称	道路が川と化した田村地区			河川	天竜川本川
災害現象	洪水氾濫			支流	
補足事項					
概要	<p>本来は梅雨の盛りのはずだが、田植えどころか水田の代かきもできないほど、春先からの少雨で水枯れの状態が続いた1961年（昭和36年）6月。ところが、23日夜から降り出した雨は「お湿り」どころか徐々に勢いを増し、下伊那郡豊丘村でも雨水を吸い込んだ山肌の土砂が部分的に大きな被害をもたらした。</p> <p>中でも、県道伊那生田飯田線から4キロほど東側の山あいにあった河野地区の二丁集落では、27日午後の山崩れをきっかけに電灯が消え、村からの情報も途絶えた。土砂交じりで濁流と化した間沢川は、一晩の間に農地を根こそぎ飲み込み、川べりの幹線道路を全てえぐり取ってしまった。</p> <p>●体験談：災害当時、豊丘村豊丘南小学校5年生</p> <p>夕方四時ごろには私の家の前もくずれ、ほら田を全部なめる様にして下の方にとんでいった。弟と私はおとうさんたちの話を聞いて、どうなる事かと、家のすみに小さくなってふるえていた。その時ずしんと言うような音でしたので、おとうさんがとび出した。</p> <p>「えらい事だ。家にはいられない。あぶない。」</p> <p>とさわぐので出て見ると、東の方の家はどろにつつまれて、立ってもいない。私達は仕たくをして、おとなりにつれてってもらった。道は川のように水が流れている。おとなりにようやくの事にたどりついた。家はどうなるのだろう。（「濁流の子」p.170より）</p>				
記録					
	 <p>道路が川と化した豊丘村田村地籍</p>				
出典	「語り継ぐ災害の記録」p.42/「濁流の子」p.170				
備考					

No.	16-1-4	場所	豊丘村神稲	緯度	35.548428
名称	道路が川と化した田村地区			経度	137.89537
地図	広域図				
					
地図	詳細図				
					
備考	上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。				